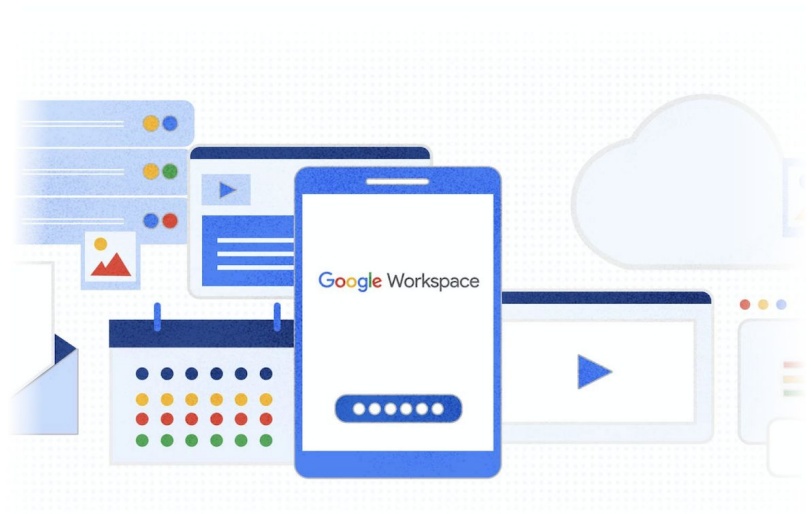


# Google Workspace と BigQuery による 働き方向上の実現

-Google Workspace のログデータを活用し、  
経営ダッシュボードを作成しよう-

Google Cloud Japan  
Google Workspace スペシャリスト  
カスタマー エンジニア  
白川 遼



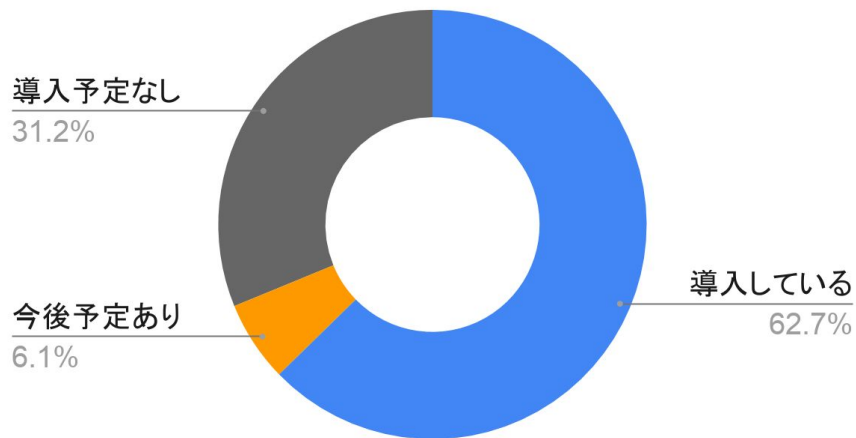
従業員の働き方  
向上における課題



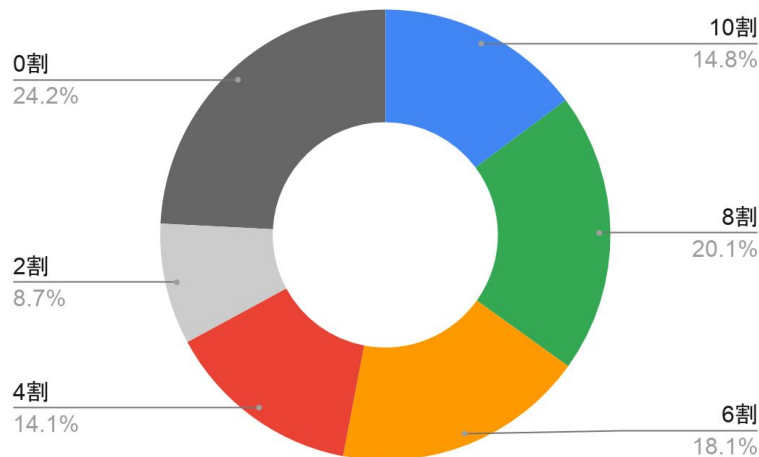
# 日本のテレワークの現状

- テレワークの導入率は前年の 25.1% に対して 62.7% となり **37.6 ポイント向上**
- テレワーク導入済み企業の内、利用者数が 6 割以下 と回答した企業は **65.1%**

## テレワークを導入していますか？



## テレワークを実施している社員の割合

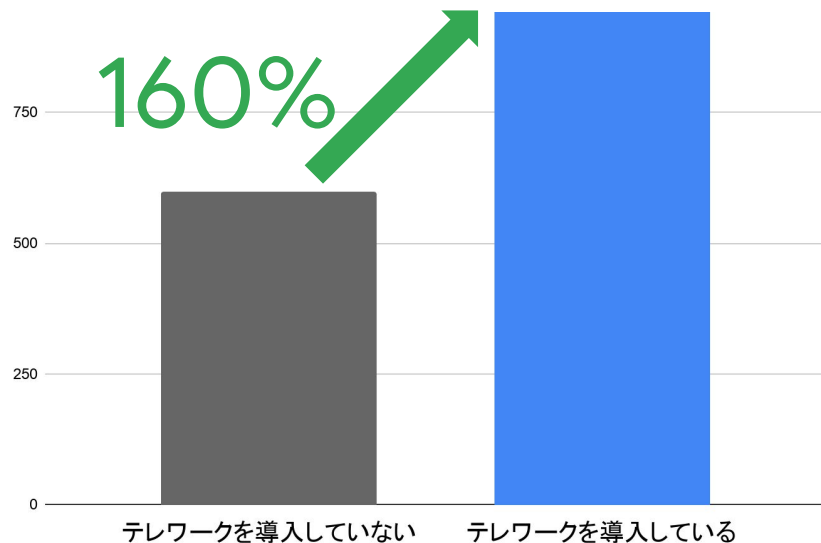


<sup>1</sup>[東京都 テレワーク導入緊急調査 報道発表](#)

<sup>2</sup>[東京都 テレワーク「導入率」緊急調査結果](#)

# テレワークがもたらす価値と今後のあり方

## テレワーク導入と労働生産性の関係



※労働生産性 = (営業利益 + 人件費 + 減価償却費) ÷ 従業員数

# 74%

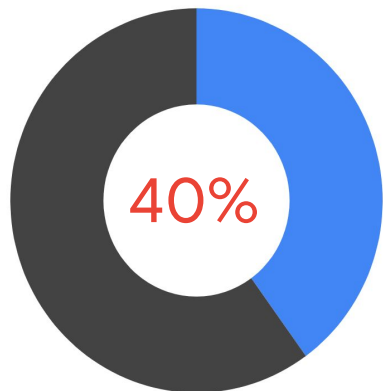


の CFO は、2020 年 3 月の調査で、COVID-19 後に、以前はオンサイトで働いていた従業員の一部を遠隔業務に恒久的にシフトさせるつもりである

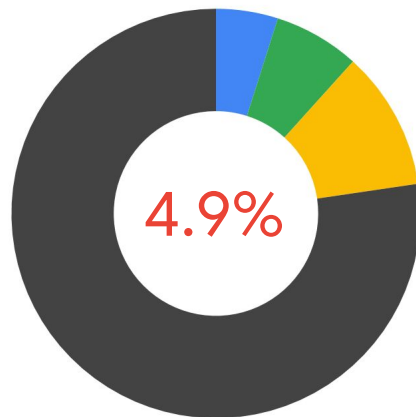
(Gartner)

# 従業員の働き方に対する取り組み状況

モバイルを活用できていると回答した企業

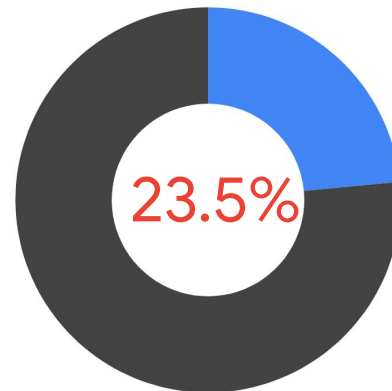


デジタル人材の充足状況



● 量・質ともに充足 ● 量は充足 ● 質は充足 ● 両方充足していない

長時間労働削減に向けた取り組みを従業員が好意的に評価した割合



[第1部 特集 人口減少時代の ICTによる持続的成長\(総務省\)](#)

[経済産業省](#)

[新たな働き方に必要となる ICTの導入と他の取組の組合せ\(総務省\)令和元年版](#)

Google で実現する  
働き方向上



# Google Workspace



- Google Workspace から、従業員が日々働く行動データを
  - **「リアルタイム生ログデータ」**として抽出
    - ピープルアナリティクスの1つの分析要素として活用
    - それらを高速、高度に分析する分析基盤も Google Cloud の製品ラインナップとして提供

# “データ”が 働き方改革を推進させる



# 実現のアーキテクチャ



生ログを定期的にエクスポート

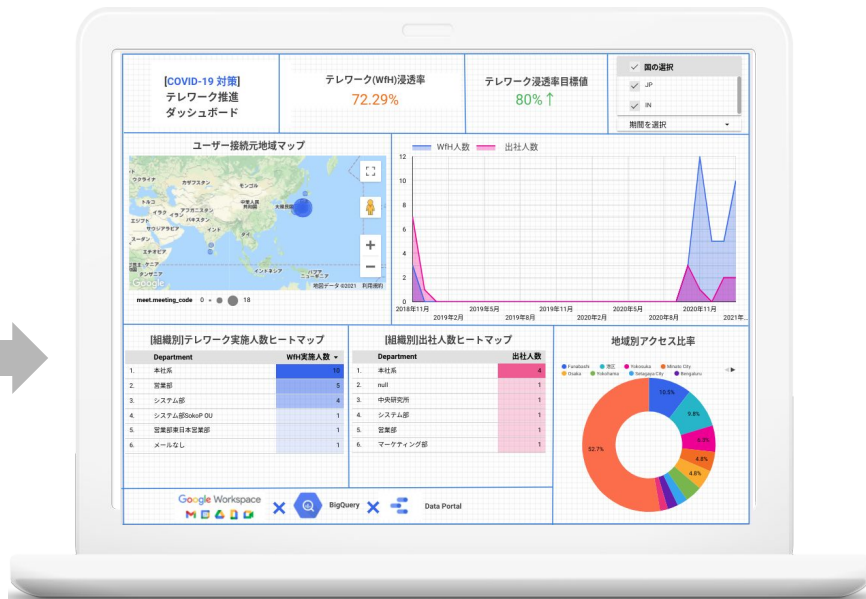
- ・テレビ会議
  - ・ストレージ(Drive)
  - ・メール
  - ・カレンダー
  - ・モバイル
  - ・ログイン
- など



- ・リアルタイムで生ログデータを収集
- ・高速なクエリ



Google Data Portal



表示・出力

# 前提条件

## Google Workspace

大企業向け

最小または最大のシート要件はありません

Frontline

2021年第1四半期より提供

Enterprise Essentials<sup>1</sup>

¥1,130

Enterprise Standard

¥2,260

Enterprise Plus

¥3,400

表示価格はすべて1ユーザーあたりの月額です。

<sup>1</sup>「Enterprise Essentials」は、現在の「Essentials」SKUとは異なります。Essentialsは引き続き存在し、チームのバイヤーを対象としています。



クエリー計算能力の課金

ストレージの料金

長期保存  
ストレージの料金

オンデマンド or 定額レート

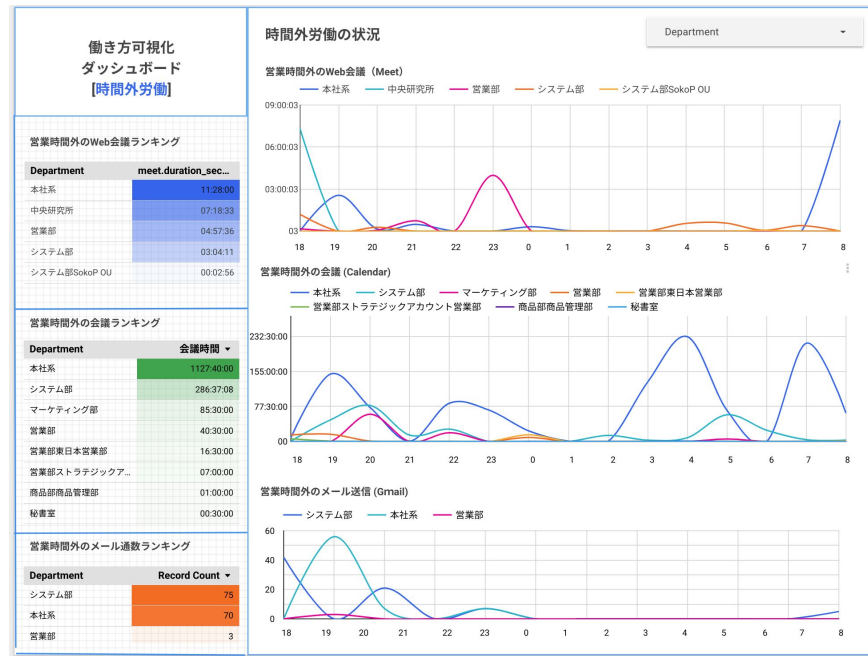
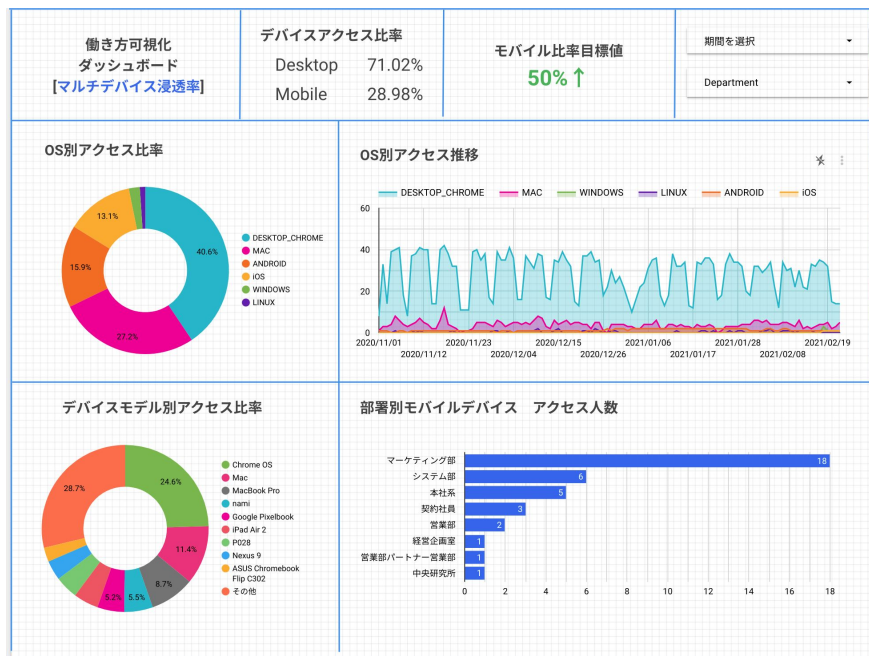
保存した分だけ課金

90日以上  
保存したデータは割引

# ダッシュボード作 成のデモ



# Live Demo: 働き方可視化ダッシュボードの例



<https://datastudio.google.com/reporting/98e5d42d-b823-411f-b386-790133461885>

まとめと  
参考リソース



# 働き方可視化のステップ

1

## データの蓄積

働き方に直結する情報を高速なデータウェアハウスに蓄積

2

## 分析したい課題、目指すべき姿を定義

例)テレワーク浸透率 80% 以上

コラボレーション活用度が低さの改善

3

## 組織の課題解決に向けた施策実行

目指すべき姿に到達するために、As-Is と To-Be のギャップを定量的に可視化、施策を実行、可視化のステップを繰り返す

# 参考情報

- サービスログのBigQuery への書き出しを設定する

<https://support.google.com/a/answer/9079365?hl=ja>

- ログのレポートとBigQuery について

<https://support.google.com/a/answer/9079364?hl=ja>

- 関数リスト(Data Portal)

<https://support.google.com/datastudio/table/6379764?hl=ja>

- Google Cloud 料金計算ツール

<https://cloud.google.com/products/calculator>

**Thank you**